

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年7月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、6/4のWTI原油は、先週比3.30ドル高の69.62ドルとなりました。欧米では、新型コロナウイルスワクチンが普及し経済の正常化も進展しエネルギー需要拡大の期待が高まっています。米国ではメモリアルデー(戦没者追悼の日)連休を境に、夏のドライブシーズンが始まりました。またOPECプラスが1日の総会で6~7月に段階的に減産規模を縮小するとの合意を追認し、急激な増産を決定しなかったため引き続き買い安心感につながり原油は買われました。

●第2週、週末6/11のWTI原油は、先週比1.29ドル高の70.91ドルとなりました。国際エネルギー機関(IEA)は月報で、2022年末には新型コロナウイルス禍以前の水準を回復すると見込まれる原油需要を満たすためOPECプラスは生産を拡大する必要があるとの見方を示しました。これを好感して相場は、一時71.24ドルまで上昇しました。米欧や中国で新型コロナウイルスのワクチン接種が普及し、経済活動の正常化が進んでおり北米では道路交通量が新型コロナ禍前の水準に回復しつつあります。欧州ではフライト需要が増加傾向を示しており、航空燃料市場では改善の兆しが見え始めています。

●第3週、週末6/18のWTI原油は、先週比0.73ドル高の71.64ドルとなりました。欧米先進国を中心に新型コロナウイルスワクチンが普及する中、経済正常化によるエネルギー需要の拡大が期待され原油が買われました。またイラン大統領選で反米保守強硬派のライシ司法府代表の勝利が見込まれており、米国の制裁解除によるイラン産原油の供給再開見通しが後退しています。米連邦準備制度理事会(FRB)は、連邦公開市場委員会(FOMC)で2023年中に事実上のゼロ金利政策を解除し、2回利上げする想定を示しました。3月時点の2024年以降の見通しを前倒した形で、量的緩和の縮小に向けた検討の開始も表明しました。これを受けてドルが主要通貨に対して上昇し、ドル建てで取引される商品の割高感が強まり原油は、売られました。

●第4週、週末6/25のWTI原油は、先週比2.41ドル高の74.05ドルとなりました。米エネルギー情報局(EIA)は、18日時点の国内原油在庫は前週比760万バレル減の4億5906万バレルと、5週連続で取り崩しとなり、在庫水準は1年3ヶ月ぶりの低水準となりました。経済指標や原油在庫にコロナ禍からの回復の動きが示されています。このほか、仮に米国がイランとの核合意に復帰しても、イラン産原油輸出に対する制裁がすぐに解除されるか懐疑的な見方が浮上っており相場を下支えています。

6月平均	WTI原油	71.35ドル	前月比	6.19ドル	為替 1ドル	111.13円	前月差	0.93円
------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

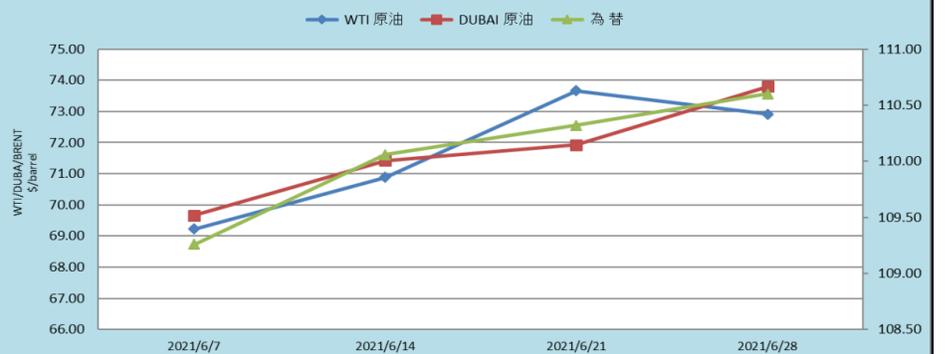
国内石油製品在庫 6月26日時点

単位:万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ

単位:円



日付	変動幅	日付	変動幅
5/27~6/2	-1.0	ENEOS	-0.5
6/3~6/9	+1.5		+1.5
6/10~6/16	+2.0		+2.0
6/17~6/23	+0.5		+0.5
6/24~6/30	+1.0		+1.0

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP			ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年1-3月C重油決定価格	49,930	51,930	49,930(メニュー)+2,000(プレミアム)	
	2021年4-6月C重油仮価格	57,330	59,330	57,330(メニュー)+2,000(プレミアム)	
	2021年4-6月C重油決定価格	58,390	60,390	58,390(メニュー)+2,000(プレミアム)	
	決定価格1-3月比	8,460			

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	2021年1-3月(決定価格)	55,400 / 59,700
	2021年4-6月(仮価格)	63,400
	2021年4-6月(決定価格)	64,400 / 69,000
	決定価格1-3月比	9,000 / 9,300

CIF価格推移	年/月	9析速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	21/5	9析速報	44,808	65.45	108.84	-855
	21/6	最終予測	47,102	68.43	109.42	2,294
	21/7	展望	49,295	72.23	108.50	2,193
	21/8	展望	50,409	74.20	108.00	1,114

【7月価格変動要因】

●需要面: 米国・中国・欧州を中心に需要回復が進み、IEAは今後1年で世界の原油需要がコロナ前の水準に戻る可能性を示しました。またインドのコロナウイルス感染者が減少傾向になっており需要回復の追い風になっています。

●供給面: 7/1のOPECプラスの会合で8月以降の増産が、日量50万バレル程度ならば原油価格上昇の可能性があり、日量100万バレル以上になれば原油価格下落の可能性もあります。またイラン大統領のライシ氏は、核合意復帰の可能性を否定しておらず今後の動向には、注意が必要です。

●リスク資産(金融市場): 米連邦公開市場委員会(FOMC)をきっかけにテーパリング(金融緩和政策を段階的に引き締め終了に向かわせる手法)が意識され始めました。株式・非鉄金属等で一時的に調整が進んだことにより原油もつれ安の可能性を秘めています。

●投機筋: 価格の上昇傾向から投機筋も買いを積み増しており買われすぎの兆候も出ています。高値警戒感や利益確定売りの可能性には、注意が必要です。

●地政学: イラン大統領選で反米保守強硬派のライシ氏が当選しました。今後の動向には、注意が必要です。

〈7月価格見通し〉 (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	80	78
Average	75	75
Low	70	70

日付	国	7月経済指標カレンダー	日付	国	7月経済指標カレンダー
1	米	6月ISM製造業景況指数	22	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
2	米	6月非農業部門雇用者数変化	26	米	6月新築住宅販売件数
2	米	6月失業率	28	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表
6	米	6月ISM非製造業景況指数	28	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見
7	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	29	米	4-6月期 四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
13	米	6月消費者物価指数(CPI)	30	欧	7月消費者物価指数(HICP、速報値)
16	欧	6月消費者物価指数(HICP、改定値)	30	欧	4-6月期 四半期域内総生産(GDP、速報値)
16	米	6月小売売上高	30	米	4-6月期 四半期雇用コスト指数
22	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利	30	米	6月個人消費支出(PCIデフレーター)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。